



# 西麗会会報



埼玉県立浦和西高等学校同窓会

5月24日(日) 母校で会いましょう



2025年度西麗会総会 出席者 2025年5月25日 万葉の庭にて  
撮影 岩本和久(1994年卒)

2026

# 母校は人生の原点

西麗会会長

島崎 富夫 (昭和45年卒)

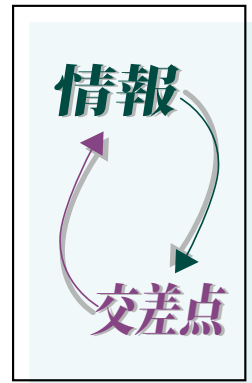


私が母校、浦和西高を卒業してから、すでに56年が経ちました。人生の終盤期に至り、最近、自分の人生における母校の位置づけについて思いを巡らします。

学校の勉強を全力で取り組んだ方ではありませんが、歴史の授業が好きで、当時の世界史の先生の授業に感服し、自分も高校の世界史の教員を目指す目標を固めました。大学では、史学科の東洋史を専攻し、埼玉県の高校教員採用試験では、世界史専門で受験し、県立高校の社会科教員となりました。以来、定年まで38年間の高校教育の仕事をしたことができませんでした。母校での授業が、私の仕事の方向づけをしてくれました。

私は入学して間もなく卓球部に入りました。仲間たちと土日も含めて練習に励んでいました。皆と一緒に夏の苦しい合宿練習を乗り越えたことなどが良い思い出として残っています。部活の同学年の仲間とは今でも年に1回、1泊の旅行をして交流を続けています。母校から始まった人間関係が今の人生の人間関係の骨格となっています。まさに、母校は、私の人生の原点なのです。

最後に、今回の会報は、第50号の記念号であります。会報は、まさに西麗会の歴史そのものです。第50号を重ねるまで、長い間、苦勞をしていただいた広報部の皆様と原稿提供にご協力いただきました多くの皆様に深く感謝申し上げます。



● 2025年度当初人事において本会員青木香さん(1985年卒)が浦和西高第33代校長に着任されました。

● 本会員、西高斜面林友の会会員、田沼(矢部)晴美さん(1967年卒)の遺作『ケヤキの季節』が、ご遺族から西麗会に寄贈され、西麗会文庫に収められました。また「1967年卒同窓会実行委員会」を通じて、本書を読んだ同窓生からの寄付金が西麗会に寄せられました。《ペンネーム柏木葉(かしわぎ・よう)。西高時代は新聞部、テニス部で活躍。2025年6月14日、「大好きだった西高」に近い浦和区上木崎7丁目の自宅にて逝去》

● 本会員、豊田(浅井)美根子さん(1961年卒)の遺作が掲載された句誌「わわわ」第9号がご遺族から西麗会に寄贈され、西麗会文庫に収められました。《2024年6月4日逝去》

● 2025年10月16日に1年生を対象とする進路講演会「未来の種」が実施され、本会会員の須藤啓介さん(2013年卒業)が講演されました。なお、「未来の種」は今回より学校の単独事業となりました。

## 「浦和西高等学校人工芝グラウンド維持管理プラン」協力をお願いについて

令和6年度、皆様からの貴重な御寄付により、第一グラウンドに県内県立高校初の人工芝グラウンドが完成しました。浦和西高校では、この人工芝グラウンドを安心安全で快適な環境で長期的に利用していくために、埼玉県教育環境整備基金を利用した「浦和西高等学校人工芝グラウンド維持管理プラン」を作成し、引き続き寄付を募集しています。プランの詳細は浦和西高校のホームページを御覧ください。

個人の寄付に対しては、「ふるさと納税制度」が適用され、寄付金のうち2千円を超える部分について一定の限度額まで個人住民税と所得税について税の軽減を受けることができます。

寄付申込書は浦和西高校で配布しています。また「ふるさとチョイス」からも寄付を行うことができます。(左のQRコードを読み取り、「お礼の品」不要の寄付をする)をクリックしてください。)

何卒、母校の取組に御理解いただき、西麗会への寄付と合わせて、母校への寄付を御検討ください。

【問合せ先】 浦和西高等学校 電話：048(831)4847



▲ふるさとチョイス



▲浦和西高校HP



▲人工芝完成披露式 (動画：4分6秒)

## 西高と私

## 「和田さんと西高と私」

和田 和子(昭和45年卒)

## 彦根から浦和へ

私は滋賀県彦根市出身でしたが、家庭の事情で中学校の時に埼玉県浦和市(当時)に転居し、浦和西高等学校に入学しました。部活動は、知り合いの先輩からの誘いで女子バスケットボール部に入部することにしました。当時の西高女バスは、顧問のS先生と、外部コーチの和田さんが指導しており、ここから和田さんと西高と私の関係が始まります。

## 家族として和田さんを応援

当時の部活動は、水を飲ませてもらえない、今では考えられないような状況でした。けれど、幸いに私たちの代の女バスの成績は関東大会で堂々3位という実績を残しました。

私の妹も、浦和西高校の女バスに入部しましたが、そこでも素晴らしい実績を残しました。外部コーチである和田さんのお陰です。

私は卒業してからも、西高の女バスを応援しながら、コーチの和田さんの姿を見守っていました。今でこそ外部コーチは公認になり有償化されていますが、当時はまったくのボランティアで、物好き

な人でしか外部コーチをやっていないかっただと思います。ただ、和田さんの西高女バスを指導する姿勢や部員に尽くす熱い思いに感動し、私は和田さんを応援したくなっていました。とうとう、出会ってから7年目に結婚することとなり、家族になってからも和田さんと西高を応援し続けることになりました。

## 西高のコーチを48年間

和田さんは西高のコーチを48年間続け、過去にはインターハイ8回出場、関東大会23回出場、ウィンターカップ3回出場と、県立高校において立派な成績を残しております。我が家の娘2人も西高女バスに入部し、父である和田さんの指導の下、富山インターハイに出場しています。親子でインターハイ出場という、思い出に残る貴重な体験も味わいました。

また、毎年の学校合宿の折には、多くの指導者やOGが合宿所に集まり、明け方までバスケットの話をしていただくのを思い出します。以前、西高女バスの顧問をされていたY先生が「和田さんがすごいのは、バスケットの話を通じて、様々な立場や、年代の人にも門戸を開いて、敵味方関係

なく話ができただことだ。ここで経験したことは現在でも活かしている。」とお話してくださいました。バスケットを通じてたくさんの方々との人間関係を築き、人脈を広げていくことができたのは、主人の不思議な力だなと感じています。

現在の埼玉県の教育公務員でも活躍している西高女バスのOGの方々が多数いらっしゃると思います。責任感、徹底する実践力、愛がある指導、など西高女バス時代に培われたものがその後の人生においても役立つのではないかと思います。(もちろんそれぞれ個人の力や努力も大いにあるとは思いますが...) ちなみに現在の西高女バスの顧問のT先生も和田さんの教え子になります。西高女バスの伝統を受け継ぎつつ、新しいバスケットの視点も取り入れながらご指導されている姿に感じいたします。引き続き西高女バスを応援しています。

## 人生最大の影響を残してくれた人

主人は2018年に亡くなっており、生前から「西高女バスの和田さん」は、バスケットボール界では結構有名だったので、私が中学校で女バスの顧問をしていた際も、他校の立派な顧問の先生方からたくさんのお話を聞くことができました。また、主人没後も試合会場などで「学生時代に西高の和田さん

には大変お世話になりました。」とお声がけいただく機会もあり、こんなところでも和田さんとの繋がりがあったのかと感銘を受けております。ミニバス、中学、高校、社会人と多方面で和田さんを知る方との出会いがあり、今でもその繋がりの広さに感謝の気持ちでいっぱいです。

私の人生に最大の影響を与えた人は、西高の和田さんです。その和田さんと西高と私に関わってくださった皆様や、今も西高の伝統を受け継いでくださっているOGの皆様がいらっしやるからこそ、現在も幸せな生活を送れています。皆様の益々のご活躍とご健康をお祈りいたします。西高女バス！がんばれ!!



和田コーチ還暦・県新人戦優勝祝賀会 (2007年)  
中央が和田コーチ、孫を抱いているのが筆者

# あの友 この友



題字・カット  
山本鐘互  
(昭和40年卒)

年木(山崎)登与(昭和26年卒) 鎌倉市

九十三才元気

毎朝雨戸を開けると目の前一面に海。ミドリ多い山の中、快適な生活。毎日結果のすぐ出る清掃に励んで楽しんでいきます。

加藤(矢部)正納(昭和30年卒) 上尾市

私りそな銀行サポートアドバイザー業務改革etc提案。支店長様即コンピューターで本部連絡システム化。

資産運用の新未来像etc、人生100年時代見据え対策、人生100年時代多様化するなか、新終活対策etc。

田島(今尾)洋子(昭和31年卒) さいたま市

ボランティア三十年実施を祝い皇居にて天皇陛下より旭日双光章を頂き日本の国に尽くして下さいとのじきじきのお声がけに身を縮して毎日を通りおしております。

堀野忠夫(昭和34年卒) さいたま市

相変わらず、母校の「学校薬剤師」を

やっています。多くの先輩、後輩と交わっています。母校の発展を祈っております。

沢村(前川)栄子(昭和34年卒) さいたま市

年を追うごとに友人 知人の 訃報が耳に入るようになりとても寂しい限りです 私自身も病院通いが多くなり 老いの切なさを痛感しております

八木 正(昭和35年卒) 大町市

今年で薪ストーブを終わりにしました。林から切り出した原木は薪にするだけでなく、工作用の板材も削り出せました。さて余力活用で今年は何ができるかな??

高橋 衛(昭和35年卒) 港区

残念。総会の日は第二の故郷ドイツから西へ移動中です。バスク地方を仲間と探検後第三の故郷パリで数日。六月は万博見学です。長年同友クラブ旅行見学会の世話人です。

宮崎敏紘(昭和35年卒) 仙台市

転勤で来仙。終の住処で半世紀。会報で又想い出す青春。土の上を跌でけたサッカーボール。人工芝いいね。齢並に生活しています。「気がつけば巳年の春も七回目」

吉村克昌(昭和35年卒) さいたま市

昨今 共学の有無が話題になっていくが 今こそ共学のすばらしさを浦和西高が先頭になって大いにアピールせよ!!

林野 宏(昭和36年卒) 文京区

毎日、新しい事を考えて実行に移す事が出来るように信念を持てるように自分を育ててきました。毎日楽しく60年間勤続が今年で池袋に60年仕事しています。

島宗俊郎(昭和36年卒) 名古屋市

科研費を同僚の大学教授と共同で「観光学関連」の研究で採択を受けた。もう少し現役生活を続けます。

神谷尚武(昭和36年卒) 伊勢原市

現在、高田馬場の日本語学校にて「各国の外交官を創る!」を教育理念として日々ライフワークに取り組んでおります。苦しい時の元氣薬は浦和西高校歌♪浦和西高校歌万歳♪

山田(吉岡)留美子(昭和39年卒) 仙台市

一生の内何年かを地方で暮らす。そんな甘い夢で仙台での仕事を選びました。見切りをつけて故郷に帰った

のに、なぜか仙台で五十七年。今も波瀾万丈を楽しんでいます。

佐野和義(昭和39年卒) さいたま市

とうとう八十才の舞台に、まさに光陰矢の如し、これからどんな世界が待っているのでしょうか。

「傘寿でも酒はいつもと同じ味」

平松(山口)順子(昭和39年卒) 岡山市

卒業後52年80才になります。遠く離れて岡山で生活しています。岡山ではいろいろな人に助けられしあわせに好きな人生を歩んでいます。未だ現役で働いてもいます。

安達時彦(昭和39年卒) 川越市

2025年10月15日川口市役所本庁舎6階に油彩作品三点が設置され公開しています。お立ち寄り下さい。(48m×12m、35m×12m、35m×12mの三点)川口市祭り大名行列の絵です。

神田敏男(昭和41年卒) さいたま市

在校生の皆様、頑張ってください。ご活躍を期待しております。

増子啓三(昭和41年卒) 青梅市

高校時代「制帽廃止」が生徒会の重要な議論になっていた。また「健全会」(?)が献血キャンペーンを行い、ベトナム戦争とも関連し、米軍の献血に使われるのでは、と反対意見も根強かった。いずれも「大学紛争・高校

紛争」の小さな前兆でした。

**鶴澤利雄(昭和41年卒)** 習志野市

昨年喜寿を迎えました。卒業後59年が過ぎ、良く頑張ったなと思いましたが、最近足腰が弱って来ましたが、ゴルフと釣りを趣味に無理をせず暮らして行くつもりです。

**大賀正浩(昭和41年卒)** さいたま市

私は生を受けてから今まで、幸いにも手術と入院の経験が無い程健康体です。今も季節ごとの風を体にかけて両親に感謝しつつ見沼代用水西縁沿いを12kmランニングしています。

**杉村(増田)長世(昭和42年卒)** 横浜市

古稀同窓会より七年。生かされて生き喜寿。此岸より彼岸への過渡わたり切るを覚ゆ。生き残りし吾等ふたび、手に手とりなおしつ黄金波打つ米寿へと進まん。

**安東英治(昭和42年卒)** さいたま市

友人が少なく成って来て寂しいですが個人事業で未だ仕事も出し12人いる孫もヒデちゃんと言ってなついてくれて楽しく老後を過ごしている現在です。

**綾部登久(昭和42年卒)** 川口市

高2の時、転入生のH君と友人になりました。彼から貰った『親切な物理』のお陰で現役で大学に合格できました。(深謝)彼との交流は今も続いています。

ます。

**浦田憲治(昭和42年卒)** 荒川区

住み慣れた埼玉県から七十六歳になつて東京・荒川区に転去しました。昔懐かしい都電に乗って王子、飛鳥山、町屋、三ノ輪、浅草、隅田川と下町歩きをしています。

**岡本孝夫(昭和43年卒)** 横浜市

妻の友人の娘さんが、令和七年に西高に入学した。自由な校風に憧れたそう。今も西高には自由な校風が連綿と続いているのが、嬉しい。

**田中(福田)貴代子(昭和44年卒)** 所沢市

人生で一番大切な時を過ごさせて頂きました。数々の思い出は今も心にしつかりと残っています。

**小倉清貴(昭和44年卒)** 稲城市

週4日福祉関係の仕事で働いております。

5月4日の管弦楽部の定期演奏会には当時のクラブの仲間と演奏を聞きに行かせて頂いております。

**和田(大日方)和子(昭和45年卒)** さいたま市

バスケットボール部でした。現在も一年に一回は男女が集まって思い出話にひたっています。今の部活動では考えられない練習をしていましたね。「水は飲めない」?

**船越(山田)隆子(昭和45年卒)** 八千代市

リビングから2mしか離れていない

金木屋に今年も4度目のキジバトが巣を作りました。巣立ちの楽しみと、

子別れの自然の厳しさに毎回出会う胸がキュンとします。

**八木橋(岡田)敦子(昭和45年卒)** さいたま市

キスト岡崎さゆり宣教師が、私の所属する教会で礼拝説教して下さい、同窓生と一緒に来られた時に三人で西高の話が少しだけ出来うれしかったです。

**赤羽真如(昭和45年卒)** 木更津市

六年間務めた会社代表もおり、週四日の勤務となりました。今後は、二十年間通った野尻湖のログハウスで、少しでも長く自然を楽しみたいと思います。

**大類(木村)由美子(昭和45年卒)** つくば市

会える時に会う、行ける時に行く、できる時にやる。そのような気持ちで毎日を過ごしています。いつ何時どうなるか分からない時代・年令なので…。

島崎君、阿部君お元気ですか。一年間しか在籍しませんでした。激動の時代、鮮烈な思い出です。

**森(島田)友子(昭和46年卒)** 葛飾区

フランスW杯以来サッカーファンに。週末は味スタに通ったものでした。埼玉スタも何回か行ったなあ。Redsは強いね。いつかは行ってみたい!

アンフィールド

**加藤輝男(昭和47年卒)** さいたま市

私の名義を使って銀行の預金通帳を作成するのは犯罪です。止めて下さい。

現在振込詐欺で逮捕中です。

総務省から連絡がありました。

**宇田川(山田)成子(昭和47年卒)** 北本市

今年もまた総会と記念授業・パーティーに出席し、大声で校歌を歌い元気を頂いて帰ってきました。去年はバリ島の方がワンナイトステイと一緒にラジオ体操しました。

**小沢(小林)紀美子(昭和47年卒)** 越谷市

茶道サークルのご長老が「西高はいい学校ね」とおっしゃったので「母校です」と静かにお伝えしました。「あら、そうでしたか」と目元を更に穏やかに。

**岩城真幸(昭和47年卒)** 北広島市

昨年仕事をやめて毎日のんびりしてました。しかしやる事がなくて半年後再び仕事をする事にしました。今は健康そのものです。元気なうちは働きたいと思います。

**松岡 毅(昭和48年卒)** 藤沢市

5月10日と万博に行つて来ました。延4日間で21国25会場を巡り夜は花火と噴水劇と大屋根輪から夜景と海外旅行気分でした。今春は娘家族が

帰国するため大忙しです。

**高橋秀樹(昭和49年卒) 所沢市**

古希となる今年も、クラス会を開催することができました。担任の楚山先生をお迎えし、楽しいひとときを過ごすことができました。気持ちは現在も西高生です。

**夏坂真澄(昭和49年卒) 渋谷区**

年2回、3年8組の仲間と食事会をしています。皆の記憶はモザイク状ですが、「思い出しゲーム」はボケ防止になるようです。今年は皆、古来希なる歳になります。

**チエンバズ鈴木千恵子(昭和49年卒) 川口市**

会報の表紙で管弦楽部の演奏写真を見て自分がいた頃を思い、立派になった楽団に感激しました。当時の先輩方、お世話になりました。フルートは今も続けています。

**長澤 実(昭和50年卒) さいたま市**

今年元気に古希を迎えました。人工芝グラウンドが完成したと聞き、総会へ参加を考えておりましたが、さいたま市長選の投票立合いと重なり残念。来年参加します。

**小島健一(昭和50年卒) 大阪市北区**

前回卒業年度を誤記、方々から反響を頂きました。脳の衰退に関するものが多数でしたが、共感のお声掛けも少々。何ともしホホな一件となっ

てしまった次第です。

**江口克己(昭和50年卒) 習志野市**

妻と山登りを楽しんでおり、一緒に登頂した百名山が79座となりました。体力が落ちてきましたが残った21座への挑戦を続けます。

**白井淳夫(昭和51年卒) 横浜市**

米国に赴任し20年、製造法人を立ち上げ、ブラジルにも子会社を設立し定年帰任、勤続45年67歳で退職。家族で心豊かな生活を送る為、自宅を売却し新しい家を建築中です。

**荒井(野村)節子(昭和51年卒) 練馬区**

前回の同窓会の頃、膝の具合が悪く皆に心配かけましたが、偶然知ったPRP法で、かなり改善しました。医学の進歩つて有難いです。

**石川(大熊)理恵(昭和51年卒) 板橋区**

昨夏は経験したことのない猛暑でした。五十年ほど前は、合宿所や体育館に冷房が無くても夏合宿ができた。と、体操部の友人たちと語り合っていました。

**田島賢三(昭和52年卒) 寝屋川市**

西麗会会報の写真を見て管弦楽部があることに驚きました。私の在学中は音楽部合奏班という名で少人数で活動しておりました

**佐々木健之(昭和52年卒) さいたま市**

現在、匠コンサルタントで経営相談・

転職相談・人生相談をしています。

また、居場所ボランティアNPOフ

リーダムの統括をやっています。縁

有人幸有・共幸有!!。

**浅見宗徳(昭和52年卒) 上尾市**

先日高熱を出し、肝臓瘍という病気で入院しました。3週間の点滴治療は、ベッドの上で今後の人生について考えるいい機会でした。生かされていることに感謝します。

**関口 充(昭和52年卒) さいたま市**

昨年、再任用が終了。無職となりました。非常勤で西高で地理を教えたいですね。よろしくお願い致します。

**志村徳幸(昭和53年卒) さいたま市**

マスコミ管理部門のフルタイムが2025年9月で終了し、短時間勤務に切り替わりました。手続きや私的なバックログが終われば、自分の時間が持てそうです。

**小田郁子(昭和53年卒) さいたま市**

残暑厳しい9月に浦和西高の裏の見沼田んぼのヒマワリ畑を見に行つた。遊休耕作地を活用して約一万本のヒマワリの花が太陽に向かって咲き誇る情景は見事だった。

**田中幸治(昭和56年卒) 西多摩郡**

在学中に西高の正門のすぐ近くに住んでいたこともあり、年に何度か、与野駅から西高のあたりまでを散策

します。まだまだ懐かしい建物がたくさん残っています。

**太田薫正(昭和61年卒) 新座市**

ベトナムの仕事20年、ハノイに一人で越して2年。7、9、5才の3人の子供とにぎやかにくらししています。今年はASEAN10ヶ国訪問をついに達成したところです。

**石川幸・民見子(昭和61年卒) 蓮田市**

ホーチミンシティ在住も十五年になります。元気に暮らしています。

**皆川 正(昭和61年卒) 上北郡**

再度青森に来ました。同窓会には出席できませんが、皆様の健康と活躍を遠方から切に願っております。

**尾中(竹田)美紀(昭和63年卒) 川崎市**

令和七年二月一日、昭六十三卒同窓会。親友でもなかった学友とも時を超えた一体感。気になっていた由紀ちゃんのご縁も繋がったラツキー。また会いましょう。

**馬場則雄(平成元年卒) さいたま市**

友人に誘われゴルフを再開しようとしています。コースを回っていたのは20代ですから体が動くか心配です。ドライバーとアイアンセットをもらいました。来年会報が届く時ゴルフしていますか？

**竹内大介(平成5年卒) 桶川市**

長男が高校に進学。西高ではありま

# 会員訃報 (敬称略)

謹んでお悔やみ申し上げます

脇屋(石垣)容子(昭和18年)川口市  
2023年2月  
平野(北条)正子(昭和18年)墨田区  
2022年3月  
鈴木(高橋)榮子(昭和23年)上尾市  
2024年6月  
内山節代(昭和23年)東京都北区  
2025年3月  
永田(中川)昭(昭和24年)大和郡山市  
2024年2月  
舟久保(佐藤)貴美子(昭和26年)杉並区  
2025年3月  
鈴木チエ子(昭和27年)さいたま市  
2023年7月  
川岸萬知太郎(昭和28年)さいたま市  
2023年2月  
武井林寿(昭和28年)さいたま市  
2025年1月  
佐久間義廣(昭和30年)さいたま市  
2023年12月  
鈴木正明(昭和30年)蓮田市  
2025年2月  
山田(須賀)浪子(昭和31年)さいたま市  
2024年5月  
大塚(田中)知子(昭和32年)横浜市  
2021年11月  
平岡雅雄(昭和32年)さいたま市  
2024年5月  
小林民雄(昭和33年)さいたま市  
2025年5月  
鈴木孝治(昭和33年)つくば市  
2024年12月  
増田節子(昭和35年)国分寺市  
2025年4月  
小花照雄(昭和36年)横浜市  
2024年10月  
土橋靖子(昭和36年)さいたま市  
2023年7月  
宮沢進(昭和36年)さいたま市  
2025年3月

鯉沼(須藤)照子(昭和37年)東村山市  
2024年1月  
大井徹(昭和39年)さいたま市  
2024年2月  
石塚忠雄(昭和39年)蓮田市  
2024年12月  
齋藤實(昭和39年)さいたま市  
2025年2月  
板橋(落合)朋子(昭和40年)さいたま市  
2025年2月  
河原元(昭和40年)川口市  
2024年11月  
堀江俊男(昭和40年)川口市  
2024年5月  
佐藤陽二(昭和41年)さいたま市  
2024年10月  
高井宏行(昭和41年)さいたま市  
2022年8月  
清水俊一(昭和43年)東京都北区  
2025年3月  
宮内正志(昭和43年)さいたま市  
2024年9月  
吉江隆信(昭和43年)松戸市  
2024年1月  
池田晴光(昭和44年)中野区  
2017年12月  
鹿島康(昭和44年)さいたま市  
2025年6月  
西川裕史(昭和45年)さいたま市  
2024年10月  
海老原栄(昭和47年)川口市  
2023年12月  
石渡喜朗(昭和51年)川崎市  
2024年10月  
渡井則仁(昭和55年)さいたま市  
2022年1月  
大西彩(平成4年)さいたま市  
2024年8月

せんが、楽しい高校生活になる事を願うばかりです。長女は中学生になります。西高を目指して欲しいと心の中では思っています。

**岩村隆史(平成12年卒) 狛江市**

西高は刺激的な仲間に出逢えたかけがえのない場所である反面、とこと

ん親に心配かけた黒歴でも。疎遠でしたが、不意に甥の入学が決まり、思いを巡らせています。

**田中啓介(平成12年卒) 柏市**

西高を卒業して、はや四半世紀となりました。在校生の皆様の活動状況を見ていると元気が出てくる気がし

ます。引き続き応援させていただき

**千葉卓弥(平成12年卒) 志木市**

西高バスケ部OBです。卒業後約25年が経とうとしています。卒業後約25年が経とうとしていますが今でも繋がる縁に感謝です。時代背景を見て

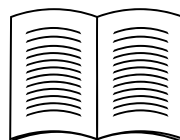
良かったと実感します。

**橋本正法(平成12年卒) 八潮市**

皆様お元気ですか？楽しかった高校時代を時々思い出します。そして、同級生の清徳先生、津留崎先生を陰ながら応援しております。がんばって下さい。

## 「西麗会会報」はインターネットでもお読みいただけます。

バックナンバーも含め、本会ホームページ上に掲載しています。学校が発行しているものではありません。学校に会報の送付を依頼することはご遠慮ください。過去5年分のバックナンバーは、西麗会総会の際に展示しています。



# 報」の歩み

を届けてきた「西麗会会報」が、今号で  
ります。

1954年

創刊号

(昭和29年12月7日発行)  
タブロイド判2面構成で創刊



創刊号

1959年

第2号

(昭和34年発行)  
木崎校舎落成式記念特集号  
として4年半ぶりの発行



第2号

1986年

第8号

(昭和61年発行)  
B5判4ページ構成に  
より21年ぶりに復刊



第8号

1987年

第10号

(昭和62年発行)  
全会員へ配布。発行費用  
を賄うため賛助広告を掲  
載し、寄付を呼びかけ

1993年

第17号

(平成5年発行)  
表紙タイトルの背景に浦和第  
二高女と浦和西高校の校章が  
加わり、現在のスタイルに

1996年

第20号

(平成8年発行)  
復刊から10年。寄付  
金の減少により、大々  
的に寄付を呼びかけ

創刊号の発行は1954年(昭和29年)。「論説」と題するコラムには、会報発行が長年の懸案であったとあり、校長(当時は西麗会会長を兼務)や、第1回卒業生塚脇和子氏(故人、卒業生出身の初代会長)などの寄稿が1面を飾っています。「別所校舎」で発行された唯一の会報で、西麗会が校舎新築寄付金を募集(目標額50万円)し、歌劇界で活躍する会員によるボーカルコンサートを主催して純益金を母校に寄付したとあります。

第2号は現在地移転後の1959年(昭和34年)に発行。第2期工事(体育館兼講堂建設と校舎増築)が落成し、第1期工事を含む総工費は約1億2千万円とあります。写真には、現在のホームルーム棟と昇降口棟(旧職員室棟)、体育館(後の格技場(平成8年解体))のみが写っています。

1960年(昭和35年)発行の第3号を見ると、学級増に伴う会員急増により経費が膨張したため定例総会は隔年開催とし、総会の告知は「会員個人宛にはせず、三大新聞と浦和を中心とする駅に広告を出す」とあります。会報は総会未開催年に発行となったようです。

第4号から第6号は、事務局に現存していません。お持ちの方がいらっしゃれば、ぜひ事務局まで御一報ください。

1965年(昭和40年)発行の第7号には、前年の創立30周年記念事業として、西麗会が校門建設を実施し、工事総額70万円余のうち40万円が寄付で賄え、不足する30万円は県費が充当されたとあります。

第8号の発行は1986年(昭和61年)です。第2代会長小林茂水氏(故人)の下で、実に21年ぶりの復刊でした。長らくの休刊は、編集の中心を担った方が急逝して引継ぎ困難となったことが理由のようです。この号は資金不足のため会員全員に配布できず、限定配布になったと記されています。この年は第9号も発行し、西麗会が「ガンダーラ美術展」で西高祭に出展することが告知されました。

1987年(昭和62年)発行の第10号は、復刊後初めて全会員(1万5千人)に配布されました。発行費用が年間収入を大幅に上回るため、賛助広告が掲載され、寄付用の振込用紙も同封したようです。翌年発行の第11号には、約50名の会員が手作業で発送準備を行ったことや、872名もの会員から多額の寄付があったと記されています。また、振込用紙裏の通信欄に書かれた一言を会報で紹介するコーナーが始まり、現在も「あの友この友」として続いています。第12号(1989年(平成元年)発行)では、学年同窓会などの開催報告が寄せられ「今日だけ高校生」のコーナーが始まりました。

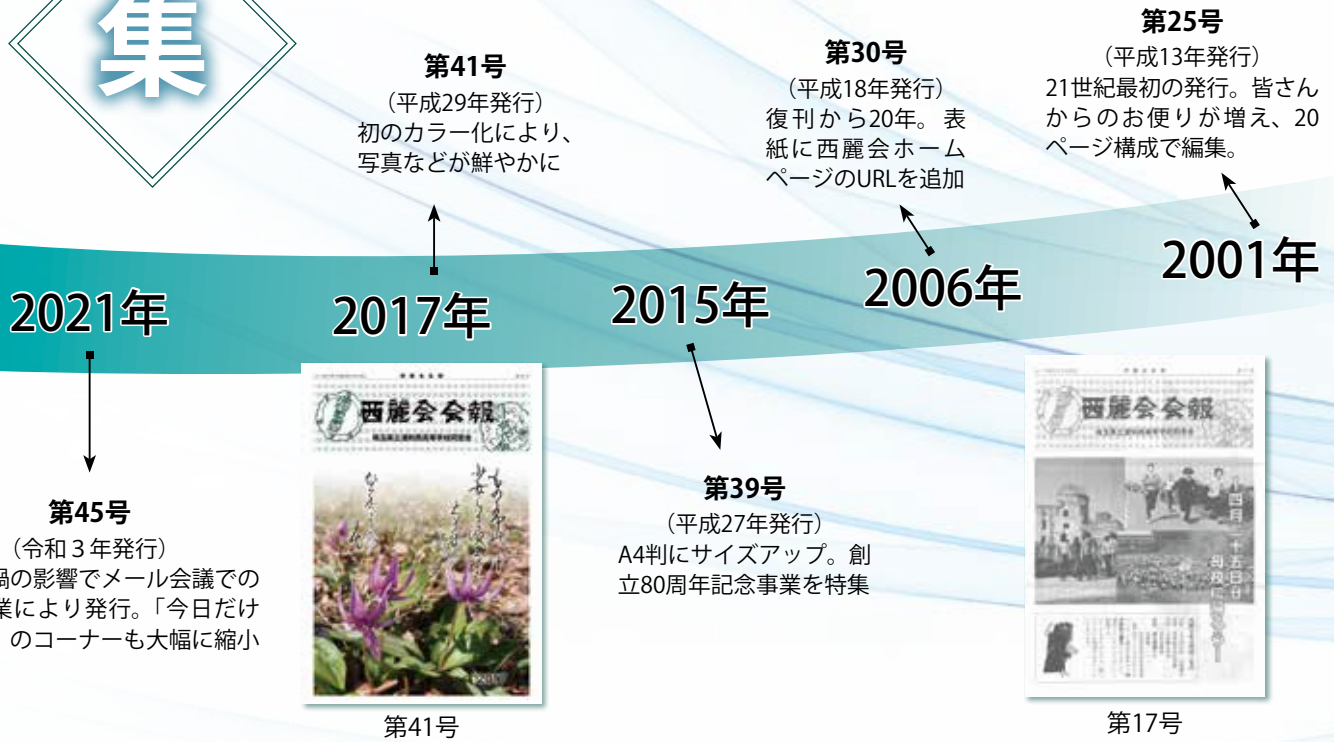
1993年(平成5年)発行の第17号では、表紙のタイトルに校章が加わり、翌年に控えた創立60周年を前に、「西高の歩み六〇年(1) 創立から昭和40年代まで」が掲載されました。第二高女の創立から戦争を経ての共学化、木崎校舎への移転、国体マスゲーム問題や学校封鎖、服装の自由化など、後世に語り継がれる歴史が記されています。翌年発行の第18号では昭和50年代以降の歩みが生徒会活動を軸に掲載され、生徒会活動の停滞や、生徒の「西高の自由」に対する意識の低下などの問題提起が記されています。西高の伝統である「自主自立」の校風をいかに守り育てていくかは、いつの時代も暗中模索が続くでしょう。

復刊から10年、節目の第20号(1996年(平成8年)発行)には、西麗会が「万葉の庭」の整備を行う方針が記されています。会報発行継続のために改めて寄付が呼びかけられ、翌年発行の第21号には寄付金が倍増したとあります。また、先

# 特集

# 祝！50号 「西麗会会報」

西麗会会員の皆さんに会員や恩師の近況、時代とともに移り変わる母校の様子50号を迎えました。あの頃はどんな会報だったのか、これまでの歩みを振り返り



第41号



第17号

生方の消息を知りたいとの意見を受け、「あの先生は今」のコーナーが始まりました。

1999年(平成11年)発行の第23号では、在校生、教職員、会員の活躍を掲載する「情報交差点」のコーナーが、翌年発行の第24号では、各界で活躍する会員に在校時の思い出などを語っていた「私と西高」のコーナーが始まり、現在の紙面構成が確立しました。

21世紀最初の発行となった第25号(2001年(平成13年)発行)は、近況報告用のはがき同封によりお便りが増え、20ページに増ページされました。20ページ構成は、2004年(平成16年)発行の第28号まで続きます。

2005年(平成17年)発行の第29号では、前年に行われた創立70周年記念式典の様子と、西麗会の記念事業として実施したホームページの開設を報じました。翌年発行の第30号からは表紙にホームページのURLの掲載を始め、第32号(2008年(平成20年)発行)以降の会報はネットでもご覧いただけます。

2011年(平成23年)発行の第35号では、前年に日幸堂が42年間の歴史に幕を下ろしたことや、正門から坂上がった左手の桜と与野駅前の大ケヤキといった、西高生を見守り続けた巨樹が伐採されたことを取り上げました。東日本大震災発生前に編集を終えていたため、翌年発行の第36号で在校生が義援金を募ったことや、福島県の方々が避難された「さいたまスパーアリーナ」での支援活動に精力的に携わったことをお伝えしました。

2014年(平成26年)発行の第38号には、創立80周年を迎えるにあたり、第二高女時代を語る卒業生座談会を掲載しました。また、母校の「万葉の庭」にちなみ、表紙に「万葉の花」と「万葉集の

和歌」を取り上げ、10年間にわたり会員の皆さんに春をお届けしました。

2015年(平成27年)発行の第39号では、前年の80周年記念式典の様子とともに、「別所沼のほとり」で」と題して別所校舎時代の特集記事を掲載しました。

2017年(平成29年)発行の第41号は、初のカラーでの発行となりました。第39号のA4化に続き、会員の皆さんにより親しみやすく、読みやすい紙面となるよう工夫を重ねた時期でした。

コロナ禍で発行された第45号(2021年(令和3年))は、毎回2面にわたっていた「今日だけ高校生」がオンライン開催1件のみで寄稿となりました。緊急事態宣言下での臨時休校や学校行事の中止・縮小のなかで新しい学生生活を模索する母校の様子も発信しました。

昨年発行の第49号では、前年に行われた創立90周年記念講演会での管弦楽部の演奏が表紙を飾り、記念講演会や人工芝グラウンド完成披露式の様子をフォトレポートでお届けしました。

(むすびに)

西麗会会報は、会員の皆さんから毎回多くの原稿やお便りをお寄せいただき、第50号まで発行を重ねることができました。心より感謝申し上げます。今後も、「あの友この友」や「今日だけ高校生」など、皆さんの近況をお寄せください。

また、昨今の物価高により会報発行費が増加しております。会報が会員相互の情報交換の場であり続けられるよう、発行継続のため一人でも多くの方からのご寄付を改めてお願い申し上げます。

まずは次の節目の60号、その先の100号に向け、広報部一同、努力を重ねてまいります。

(片岡)

# 西高通り

## 今むかし6



2020年発行の会報第44号から連載を開始した「西高通り今むかし」は与野駅前広場を出発(第45号)し、産業道路の交差点を渡って、足立神社に寄り道(第46号)。並木フラッツの前を通り(第47号)、コープ前の坂を下って「浦和ひなた保育園」までたどり着き(第48号)、もう少しで西高到着、というところで前回第49号は西高創立90周年特集のため休載しました。さあ、西高は目の前です。

### 西高生御用達の店

保育園から鍵の手に曲がって西高前の道路にでると、そこには1969年から実に42年間にわたって西高生を支えてくれた店「日幸堂」がありました。(写真1)

部活帰りに「チェリオ」を飲んだり、文化祭前には展示やステンドグラス作りのため模造紙や色セロファンを調達したり、と西高生になくてはならない店でした。(公報第35号) 滝口さんの奥さんにはお世話になりました。

日幸堂は2010年秋



写真1 日幸堂 (1994年ごろ)

に店を閉じ、その跡地には住宅ができました。

その向かい側には昭和のころ「西高うどん」がありました。(写真2、3)

そのころは校内に学食がなかった。なので「準公式学食」のようでした。良心的な値段と気さくな店構えで親しまれていました。なかには「毒そば」などと呼ば人もいますが、これも親しみの表現でしょう。



写真2 西高うどん のれん (西高創立90周年記念誌より転載)



写真3 西高うどん 店内 (西高創立90周年記念誌より転載)

### 「果林」はいま

その先にあつたのが「果林」です。(写真4)「果林のおばちゃん」の愛情のこもった大きな唐揚げが西高生の心と胃袋を満たしてくれました。

店頭に「冷凍缶ミカン始めました」と書かれた手書きの貼り紙が出ると「今年も夏が来た」と季節の到来を感じたものです。部活動の卒業祝いなどのときには2階の部屋を使わせてくれました。卒業してからも折に触れて立ち寄ってはこの部屋でくつろいでいた人もいたようです。壁にはアナウンサーの小木逸平さんのサイン色紙も貼られていました。

その「果林」の店舗はこの原稿を書いている2026年1月現在、売りに出されています。西高生を愛し見守ってくれた「果林のおばちゃん」がどこに行っても幸せに過ごされていることを願っています。

### そして西高へ

「果林」のとなりには平成時代に「小林動物病院」がありました。いまは開業していません。

その後ろには9階建ての、その名も「ライオンズマンション浦和西高前」があります。住所に「浦和西高」が入っていることにひかれてここに住んでいる西高大好きな卒業生がいるような気がします。

6年越しでやっと浦和西高の正門が見えてきました。この門柱は西高創立30周年を記念して西麗会の協力により設置したものです。(本号8ページ)

西高が鹿島台からこの地に移転してきたときに、地域住民が西高の東西を通り抜けられるよう門扉を閉め切らないことを申し合わせたと聞いたことがあります。暑い日も寒い日も通った西高通りに、あなたはどんな思いがあるでしょうか。あなたの思い出をぜひお寄せください。(小林)



写真4 果林 2025年冬撮影

「西高通り今むかし」バックナンバーは西麗会ホームページからお読みいただけます。浦和西高校への会報送付の依頼はしないうお願いいたします。

## あの先生は今



2025年5月25日に開催の西麗会総会の案内状にご回答いただいた先生方の返信を掲載いたします。

## ●東松山市 荒井 桂(社会)

練達の先生方の多かった西高に新米教師としてお世話になりました私どもも、教育界を退いた後様々な仕事に携わり、卒寿の齢まで一応元気で須杖の日々を楽しんでおります。

## ●鴻巣市 加藤 剛(数学)

私立高勤務5年の64歳。昨年は担任で、「コアラみたい」と生徒。ハゲ残った左右の髪が耳かなと女房。お世話になった島崎会長にはアルアル天辺までまでの会報に見入る。

## ●川越市 久津間 文隆(地学)

西高を去って四半世紀。昨年大東文化大学を定年退職しました。今は、一市民として博物館や公民館などで地学の普及に関わっています。

## ●さいたま市 河野 卓生(数学)

三階の窓から広がるグラウンドでテニスをしている一人の生徒。今でもその時代を懐かしく想う。さらなる西高の発展を祈りつつ ああ すぎさりしあの時よ。

## ●さいたま市 小林 功(国・司)

定年退職して5年。早かった。高

校生のときに読んだ『チップス先生、さようなら』(ヒルトン作)のような退職後の生活を思い描いていたが、そんな日が来るのはいつになることか。

## ●上尾市 小林 文子(英語)

西麗会総会および玉井先生の記念授業へのご案内をいただきありがとうございます。玉井先生とは1年間だけ一緒にすることができたと記憶しています。当日は残念ながら参加することができません。玉井先生はじめ、西麗会の皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

## ●さいたま市 柴田 久美子(国語)

昭和の卒業生の皆様の近況報告に励まされます。健康の源は、出歩くこと、人に会うこと、新しい体験……:~:でしょうか。私も元気な七〇代をめざします。

## ●さいたま市 菅原 鉄也(国語)

今年度も川口青陵高校で、お世話になっていきます。新聞や雑誌に投稿することが多くなりました。採用された自分の文章を読んでは、一人、悦に入っています。

## ●上尾市 楚山 大和(英語)

心身の健康維持のために盆栽、骨董収集、ジョギングの他に高校時代にかじった「源氏物語」の勉強をしています。西のシェイクスピア、東の紫式部。玉井先生の記念授業に出席できないのが誠に残念です。

## ●さいたま市 谷川 洋(生物)

昨年とは僭越ながら記念授業をさせていただき、懐かしい先生方や教え子たちと再会できました。再任用4年目。二学年担任として今年度は沖縄修学旅行の引率です。

## ●葛飾区 谷本 秀樹(社会)

再任用終了後、武南高校で6年目に入りました。本校にも西高勤務経験者や西高卒業の方がいて、ときおり懐かしく思い出話をしています。昨年は1年遅れの谷川さんの退職祝いで旧同僚の皆さんにお会いしました。

## ●さいたま市 仲西 駿策(保健体育)

西高サッカー部の礎を築いた初代主将で全国選手権に導いた武井林寿氏(90)が鬼籍に入られました。西高サッカーを陰に陽に支援下さり、重鎮を失ったのは誠に残念でなりません。図書館隅に刈り込まれた月桂樹はその後の全国優勝を果たした記念樹です。西高サッカー不滅の証です。大切にして下さい。

## ●さいたま市 中村 清(国語)

92歳、独居老人となりましたが、気ままに暮らしています。在任当時の同僚、生徒諸君のことは忘れることはありません。

## ●川越市 中村 正美(英語)

今年も継続で、浦和の県立で教えています。人生はバランスが大切で、仕事を通じて社会の中で責任を持ち、苦勞もありますが、そこで生まれる

人との関わりが心を豊かにしてくれるのだと思います。

## ●鴻巣市 丸山 光夫(数学)

会報を楽しく拝見させていただいています。創立九十周年でしたネ。おめでとうございます。百周年に向けて益々のご発展を祈念申し上げます。

## ●さいたま市 森本 恵美子(国語)

高校時代の友人達と時々、女子会をしています。最近は趣味や健康の話で盛り上がります。2月に長年憧れていたモン・サン・ミシエルに行きました。絶景でした。

## ●さいたま市 山本 康義(国語)

昨年選歴を迎え、特例任用で大宮中央高校に勤めています。理科の井組先生や体育の浦山先生、木村先生等、西高でお世話になった先輩方と楽しく過ごしています。

## ●川越市 吉沢 義和(書道)

たいへんご無沙汰しております。87歳になりました。まだ書の道を歩んでおります。毎日のごとく筆を手にした生活です。最近足が弱くなり、外出は無理です。

## ●川口市 吉住 知史(社会)

77歳になりました。相変わらず年に何回か海外に行っていますが、旅先でウクライナやガザのニュースに接して、心が晴れないこともしばしばです。

# 寄付者のお名前

(敬称略)

## 昭和26年卒(3回)

岡田幸子 年木とよ子

## 昭和27年卒(4回)

梅田亮子 田中まさ子  
林敏子

## 昭和30年卒(7回)

小林茂水 弓削田務

## 昭和31年卒(8回)

小林寿一 松本晃  
冷水俊朗 森田尚志

## 昭和32年卒(9回)

小林久江

## 昭和33年卒(10回)

古畑喜美子 鈴木孝治  
町田利之 井上こみち

## 昭和34年卒(11回)

高橋幸雄 堀野忠夫  
野々垣芳枝 林章子

川畑啓子 深見栄一

上原志那子 岡崎輝子

永田典子 吉田維夫

## 昭和35年卒(12回)

菊池桂子 杉田香津江  
竹ノ谷裕子 林正子

高橋恵美子 高橋衛

宮崎敏敏 大熊光明

高橋正臣 八木正

## 昭和36年卒(13回)

吉村克昌 興水敏男 高橋司全

海老原稔 齋須祥子

河原塚洋三 齋藤庸夫

島宗俊郎 星野康弘

神谷尚武 林野宏

藤田静子 富田鎮雄

高山英彰 吉岡信二

## 昭和38年卒(15回)

牛島美智恵 岡安史子

小牧武夫 粕谷久

渋谷正雄 中河原喬二  
浦田政一 木戸晃

## 昭和39年卒(16回)

鈴木由美子 福島珠代  
平松順子 村井公子

山田留美子 安達時彦

小沼小夜子 田中裕子

佐野和義 山田康博

宇治田進 内山一郎

榎本正次 後藤鉄四郎  
野口為公 村井勝美

吉岡武男 佐藤誠造

滝澤恒夫 森茂

山田信彦

## 昭和40年卒(17回)

丹野瑳喜子 河原元

沢田正行 田口勝榮

野口哲夫 松本薫

富田穰 服部光之

富田輝子

## 昭和41年卒(18回)

鶴澤利雄 岩本君江

蕪木弘子 長島喜代子

町田友子 渡辺光子

宇根等 大賀正浩

神田敏男 新藤文男

枘田栄作 江川清

佐藤裕子 関根耀子

高橋みつ子 池澤堯彦

佐野茂 増子啓三

松村光雄 田中昭吾

志賀摩里子 大熊幸雄  
小林宏敬

## 昭和42年卒(19回)

富岡孝雄 綾部登久  
稲垣昇 木村正一

田中孝一 丸山宮子

安東英治 甲斐佳晶

斉藤勉 杉村長世

井上千津子 榎本信子

佐竹恵津子 松本知歌子  
川崎由紀子 田中すえ

上野典世 佐藤良雄

斉藤憲一 長久保洋二

岡本孝夫 永田喜雄

## 昭和43年卒(20回)

西村富夫 板野敏子

佐藤美恵子 川合省

松田章子 磯田喜美子

千谷一郎 片岡素子

山下和子

## 昭和44年卒(21回)

安藤昭 外山雅一

野原文規 齋藤芳昭

古館勲 辻久枝

石井均 武山洋一

丸山紀子 中村洋子

小林三喜男 榊原啓子

新井三津恵 田中貴代子

岩淵豊 渋谷洋人

中島恒雄 中村司

田口和成 吉田和枝

島崎富夫 大類由美子  
堀田美枝子 綿貫保子

## 昭和45年卒(22回)

島茂美 八木橋敦子  
島泰子 赤羽眞如

加藤信一 永井隆史

林一雄 工藤英治

関本孝三 寺木眞一郎

阿部博之 新井康俊

金子弘 井原誠吉  
森友子 有賀浩治

船津徳英 田栗節子

岡田美枝子 武藤智江

今成博茂 千田晃二  
林則彦 能登則男

## 昭和46年卒(23回)

福井一夫 宇田川成子

岩城真幸 塩見幸子

野口万里子 今岡章夫

海老瀬洋子 栗原政江

細田陽子 白石哲郎

町田克典 兼良子

林明美 福田定男

間山和幸 高橋理恵子

小谷野博史 津田和子

## 昭和47年卒(24回)

安藤裕子 今井敏明

高橋厚夫 加藤政江

高橋律子 野口佳代子  
橋本友美子 荒川薫雄

鈴木芳夫 松井美恵子

松岡毅 宮入知恵子

上原節子 吉倉康晴

會田久子 高橋秀樹  
成田寛 松葉元

## 昭和48年卒(25回)

金子真紀子 田中則夫  
岡田曜子 武井隆一

加藤えみ子 武田玲子

草薨正美 島内則子

野間薫 夏坂真澄

チェンバーズ千恵子  
小島健一 清宮千加男

岩田由美子 田子和明

富樫正紀 竹内斎

江口克己 青山篤

## 昭和49年卒(26回)

大崎栄一 加藤純代

河村郷子 斉藤登

豊田勉 長澤実

阿部明宏 山崎幸子

白井淳夫 木村佳子

黒須仁 嶋原勝久

船橋由美 村田篤

伊藤京子 大迫義谷

石川理恵

## 昭和50年卒(27回)

早乙女宣明 亀山浩一

堀内比呂志 田村民子

星葉子 浅見宗徳  
配嶋幹雄

## 昭和51年卒(28回)

河野正 阿達ヒトミ

武藤英子 佐藤喜夫

内田圭子 小田郁子  
長谷山恵子 石原早苗

鳥羽恵 大塚昭之

渡部智博 武田真由美  
中塚紀子 阿野清治

## 昭和52年卒(29回)

中村裕一 五十嵐克篤

添野佳一 西尾顕

富田由賀子 小見恵一

松浦景隆 海老沼公二  
山谷優子 山田誠一

小林功 郷由美子

三木明美 泉名泰之

桐永香百里

## 昭和53年卒(30回)

阿達ヒトミ

武藤喜夫

小田郁子

石原早苗

大塚昭之

武田真由美

阿野清治

西尾顕

小見恵一

海老沼公二

山田誠一

郷由美子

泉名泰之

昭和55年卒(32回)

松本和幸 杉山利行

杉井美佐子 大澤浩司

根本みどり 小野裕子

齋藤美雪 山本玲子

飯ヶ浜幸雄 飯ヶ浜由紀子

今原真理子 平井順子

江森靖 大貫俊和

山下勝矢 松本才喜

高橋かほる 若崎千佳子

板倉克弥 田上啓

千田寛 戸田仁

近藤久美子 田中幸治

宇和野真由美 吉岡典子

板橋安夫 吉田新一

山崎智与里 宝寺浩

昭と57年卒(34回)

中野則子 福島久美子

吉田浩之 山崎正一

小橋和則 福川英司

本多卯生 増田裕一

追立真由美 工藤茂博

平井敦子 中山晴喜

昭和58年卒(35回)

久保村康史 関根章文

佐藤真澄 安藤晴美

多田美紀 森下利佐

忠末修二 山根裕子

高木美香 中村克巳

羽田俊之 杉浦弥生

昭和59年卒(36回)

平明夫 坂積直美

高木晶子 正田淳

初田千秋 濱野広悦

齊田絹恵 中西博子

伊藤育子 三野裕之

渡邊ルミ

昭和60年卒(37回)

高橋臣 山中英美

玄間千秋 間瀬功一

吉井和子 江草文子

笠井千奈美 青木幹雄

大熊康典 仙澤隆

若松重夫 佐藤幸江

増田恵子 山田照子

昭和61年卒(38回)

信田照幸 石川民見子

石川幸 小林洋一

長谷川友孝 牛山茂樹

相沢喜一郎 佐藤洋子

平野陽子 菅間智義

高久圭二郎 石優子

小出早知恵 茂木秀俊

昭和62年卒(39回)

鈴木成子 伊藤千草

清水祐司 伊藤文人

市野陽子 小瀬隆一

高橋修一

昭和63年卒(40回)

島田貴子 石川一善

松嶋千晶 伊東波麻美

栗原秀夫 尾中美紀

平成元年卒(41回)

笹本紀子 栗原英一

楠瀬久美子

平成2年卒(42回)

森切瑞恵 細瀬裕幸

中里史朗 北原路子

片岡伸夫

平成3年卒(43回)

相馬知伸 森泉和宏

新井均

平成4年卒(44回)

大西彩 大西徹

橋本雅子 澤栄之介

平成5年卒(45回)

高橋和歌子 竹内大介

平成6年卒(46回)

佐藤貴史 実藤雅史

岩本和久 澤田尚美

平成8年卒(48回)

和田牧子

平成9年卒(49回)

大塚信之介

平成10年卒(50回)

井上嘉美 片岡浩一

前田英子 三上朋子

平成11年卒(51回)

飯島大輔 阿部愛

久良木基広

平成12年卒(52回)

清徳史雄 津留崎治子

移川道男 田中啓介

橋本正法

平成13年卒(53回)

佐々木崇 新山由佳

清水利恵 本田早希

木村里紗

平成14年卒(54回)

有馬元明 関野晃弘

岡田恵甫

平成15年卒(55回)

田嶋吉崇 真田郁

平成16年卒(56回)

坂西野風子 加藤まみ

平成17年卒(57回)

武川葉月

平成18年卒(58回)

黒米敏弘 門倉智弘

平成19年卒(59回)

三善隆弘 松田裕太郎

会田千尋

平成20年卒(60回)

蘆名伸明 宮代孝洋

平成21年卒(61回)

松田巴

平成22年卒(62回)

斎藤諒大 福島有夏

平成24年卒(64回)

大崎友理華

平成25年卒(65回)

河村尚直 福島康弘

望月徹

平成27年卒(67回)

高木彰吾 蘆名紀菜

平成29年卒(69回)

長谷川輝

平成30年卒(70回)

森切遥海

令和2年卒(72回)

忠末陽輝

令和3年卒(73回)

森本直寛

令和4年卒(74回)

山田涼平

令和7年卒(77回)

川田梨々亜 八木俐京

一般団体

1967年卒同窓生

同窓会実行委員会

昭和61年卒同窓会一同

令和7年3月卒業生一同

ダイレクトバンキング

モギ

オノデラ ユウコ

ダイレクトバンキングも

いつも尊いご寄付をありがとうございます。同封の払込票をご利用の場合、本会より手数料152円～527円が引き落とされます。ダイレクトバンキングをご利用いただける方はご協力をお願いします。その際、お名前の後に卒業年を明記してください。

<ゆうちょ銀行払込口座>  
02東京 00190-6-178474  
<加入者名>  
浦和西高等学校西麗会

ご利用ください

# 同窓会だより 今日だけ高校生

## 昭和39年卒同窓会

野口 為公

令和7年11月11日(火)、さいたま新都心駅西口の「ホテルプリランテ武蔵野」殿5階に於いて、昭和39年卒の傘寿一同が集まり同窓会を開催しました。



ケヤキの大樹特有の黄色や赤色の紅葉やかな「ケヤキ広場」を潜り抜け54名の男女が集い、佐藤会長の挨拶に始まって飲食、歓談そして体ほぐしの体操から合唱部員指揮による「遠つ世ゆく」斉唱まで。  
その後ほぼ全員で東口の2次会場に移動して再び楽しい時を過ごしました。

## 1967年卒

### 喜寿同窓会を開催

杉村(増田) 長世

2025年10月30日。新制第19回(昭和42年卒)同窓は、埼玉会館内「ピストロやま」で「喜寿同窓会」を行いました。

2018年11月11日開催の「古希同窓会」には150余人、全同窓のうち3分の1が再会の快挙を果たした。あの日「7年後、またやろう!」と誓いつどった同窓は、全同窓(511人)中およそ10分の1、54人だった。

だが……7年の間に新型コロナ蔓延あり、大地震、風水害あり、増税あり、インフレあり、年金暮らしのわが団塊同窓にとり、攀じ登る小径はますます険阻。文字通り、杖つきたどりつく友あり。その再会の感動、5倍10倍。6月に亡くなった「西高大好き!」学友の遺影あり。彼女の遺作『ケヤキの季節』紹介あり。

つきぬ歓談、宴の最後。西高初代ギター部長と現役プロギタリスト同窓とのデュエットギター伴奏で、全員斉唱。唄は、永六輔作詞、中村八大作曲『見上げてご



らん夜の星を』。  
さあ、次は「傘寿同窓会」。生きて、生きて、生きて、生きて、生きて、生きて、生きて、生きて、生きて、また必ず会おう!

## \* 予 告 \*

1979年卒のみなさん  
2027年1月に同窓会を開催します。  
詳細は西麗会ホームページ「同窓会情報」にておしらせします。  
こちらのコードからアクセスしてください。



## 1986年卒同窓会

勝呂 晃

「次は5年後に!」と別れてから7年後。2025年4月27日に1986年卒業生の同窓会が開催されました。コロナ禍の影響を受け「もう次は還暦同窓会でいいんじゃない?」という声もありましたが、この7年間に世を去った恩師・同級生がいることも考え、開催に踏み切りました。幹事が今回目指したのは「1人でも多



くの同級生に同窓会の開催を伝えること」西麗会にも住所ラベルの提供でご協力いただきました。その甲斐あって参加者138名。内前回の不参加者55名で開催することが出来ました。

1-3, 2-3, 3-1-6の担任を務めてくださった新井先生をお招きしお話をいただきました。

記念撮影、乾杯、クラスごとの時間を含め、瞬間に3時間は過ぎ、話し足りない我々は二次会へと向かいます。

次は還暦か65歳か。いずれにせよ、身体に気をつけて元気にまた会おう!と再会を約しそれぞれの帰途についたのでした。

1994年卒

同窓会を開催

依光 哲也

高橋 (山本) 香菜

卒業から31年、50歳を迎える年齢となる2025年の7月5日(土)、さいたま新都心エリアにある「ステラ・デル・アンジェロ」にて学年同窓会を開催いたしました。卒業から30年以上が経ち、連絡先が分からない同級生が増える中、まずはLINEでグループを作り多くの方々の協力を得て卒業生のおよそ3割強の人数の同級生と繋がることができました。

当日は参加が叶わない方々もいましたが、卒業生全体のおよそ1/5強にあたる95名と、3年時のクラス担任だった久津間先生、安立先生、米原先生、内海先生、

川村先生、川瀬先生、小島先生にご参加いただき、大盛況の会となりました。

二次会はさいたま新都心駅近くのお店に場所を移し、二次会、三次会まで多くの方にご参加いただきました。懐かしい顔ぶれが揃い、過ぎ去った日々が鮮やかに甦る、かけがえのない時間を過ごすことができました。

今回の同窓会の連絡を受け取っていない方がいらっしやいましたら、次回の同窓会の連絡のためにも、urawanshi1993@gmail.com にご連絡をお願いいたします。



県名発祥の地をめぐる

理事研修旅行報告

11月15日に8名が参加し、行田市にあるさきたま史跡博物館、さきたま古墳群、行田郷土博物館・忍城を巡り、埼玉の歴史について学んできました。

さきたま史跡博物館の敷地内には県名発祥の碑がありました。さきたま古墳群には8つの古墳があり、2つの古墳上に登ることができました。忍城は「続日本百名城」のひとつで、映画「のぼうの城」のモデルとして知られています。

文責 吉田 浩之 (昭和57年卒)



お世話になった先生方

令和七年度人事異動 (敬称略)

校長	加藤 元	春日部女子高校
教頭	岡田 祐二	草加南高校
社会	鈴木 太郎	高校教育指導課
国語	氏家 康太	浦和第一女子高校
社会	黒須 京子	いずみ高校
理科	橘田 伸彦	蓮田松韻高校
情報	平林 詩海	寄居城北高校
国語	柳澤あゆ美	大宮光陵高校
保健体育	向井 司	浦和商业高校
養護	北角 幸子	任期満了
事務	近藤久美子	大宮武蔵野高校
美術	江崎絵里子	さいたま市立浦和高校
英語	白山 啓子	武南高校
社会	高梨 吉弘	上尾高校
美術	西野真由美	草加高校

# 5月24日(日) 西麗会総会・記念授業

**日時** 2026年5月24日(日)

- 10:00 総会開会
- 11:00 記念授業
- 12:30 懇親パーティー
- 14:00 閉会予定

**会場** 浦和西高50周年記念館



昨年度記念授業 玉井春美先生



昨年度の講師を囲んで

今年の総会の記念授業は理科の小野岳生先生

『富士山つて美しいですね！』

『美しさはどこから！』

教員生活の土台は西高でつくられた！



小野先生は、東京理科大学理学部物理学科を卒業後、昭和52年に新卒で西高に着任されました。当時の生徒はほぼ同世代。自分にはない様々な個性に楽しみと驚きをもって接する中で、生徒を尊重し決して見下すことはない生涯の感性のようなものを培われたと感じたとのこと。

西高では11年間にわたり、教科指導(物理、化学、地学)、担任・分掌(進路指導、図書視聴覚、生徒会)、部活(男子バレー部、物理部、地学部、水泳部)等で生徒を導いていただきました。現在も他校にて非常勤で物理を教えていらっしゃいます。

最初の担任時にはクラス通信を発行して、その時の思いをぶつけたこと、初の卒業生には人生への姿勢等についての思いを綴った冊子を作成したことが、その後の教員生活の支えになっているそうです。

授業は、「自分が教えることで理科を嫌いになせないとの強い思いを心掛けて臨んだ」とのことです。在学中に理科が苦手だった方も、今からでも遅くありません。

小野先生の授業を受け、理科を好きになりませんか。

文責 吉田 浩之 (昭和57年卒)

## 編集後記

西麗会会報第50号をお届けします。会報の種をまいた人がいて、それを引き継いで大切に育てた人がいて、そして50号に育ちました。歴代の編集担当、何より愛読してくださる読者の皆さまに心から感謝します。

今号より広報部にニューフェイスが加わりました。2017年、第69回卒の長谷川輝さんです。会報にフレッシュな風を吹き込んでくれると思います。(小林)

### 広報部

- 小林 功・杉村 長世
- 堀田美枝子・岩本 和久
- 片岡 浩一・植田 高史
- 長谷川 輝



編集・発行

## 西麗会

発行人 島崎富夫  
編集人 小林 功

〒330-0042  
さいたま市浦和区木崎3-1-1  
FAX 048(830)1117  
西麗会メールアドレス  
info@seireikai.org  
西麗会ホームページ  
http://www.seireikai.org